

大阪電気通信大



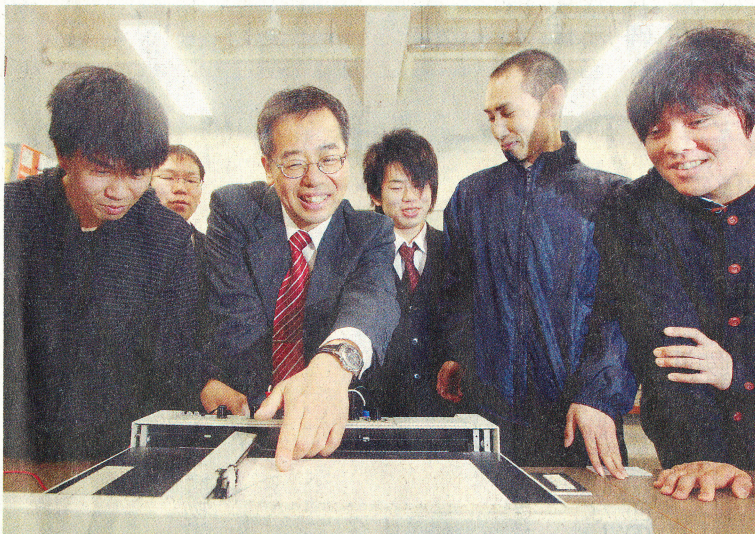
Vol. 26

電気電子工学科

松浦秀治教授 54

食物や体内に含まれる極微量の放射性物質や有害物質を検出できるX線検出素子の研究をしています。

例えば、米1杯・釜中に残留する0.4ミリのカドミウム、つまり250万分の1の微量物質を検出するような素子、センサーです。高度な分析が可能でコンパクトな素子ができ



推論と実験重ね「謎解き」

マイレクチャー

ば、手軽に持ち運べ、様々な場所で利用できる装置の開発につながります。

大学で身につけなければならぬことは「考える力」です。定理・法則から公式を導き出す力を培うため、授業の最初に毎回、復習テストを実施したり、講義の中から重要なところを聞き取ってテキストに書き込ませたりします。

特に重視しているのが実験と卒業研究です。実験を試してみると、教科書に載っていない現象に遭遇することが度々あります。なぜ、そうなるのか。自分なりの推論モデルを作って、それを実験で確かめる。推論と実験を繰り返し、皆で議論する。まるで推理小説を読み進む楽しさがあります。優秀な卒業研究は、応用物理学会で発表させます。著名な研究者を相手に、学生たちが堂々と説明する姿に成長を感じます。

まじつら・ひでは、京都大大学院修了。電子技術総合研究所を経て大阪電通大へ。2003年から現職。専門は半導体工学。「宇宙用太陽電池の耐放射線に関する研究」にも取り組む。